

下水道を正しく使おう

毎年9月10日は「下水道の日」です。下水道は、川や海の水をきれいに保ち、私たちの生活をより快適なものにするために必要な施設です。しかし、正しい使い方をしなければ本来の役割を果たすことはできません。施設を長く使うために、正しく使いましょう。

問 下水道課（春日庁舎内） ☎ 74 - 0224

3つの項目に注意

① 生ごみや油・髪の毛など
昨今、下水道管がふさがってしまいうトラブルが多く発生しています。下水道に流せないものを流していることが原因です。特に次の3つの項目は、下水道に流さないように注意しましょう。

② ティッシュペーパーや紙おむつなど

トイレにティッシュペーパーや紙おむつなどを流すと、排水管や下水管を詰まらせる原因になります。トイレットペーパーまたは水に溶けるティッシュペーパー以外は使わないでください。

③ 雨水

下水道に流せるのは汚水のみです。宅地内の屋根や庭に降った雨水が下水管に流れると、各家庭からの汚水が流れにくくなったり、逆流してしまいます。誤って雨どいが下水管に接続されていないかご確認ください。確認方法は、下水道課に問い合わせてください。



丹波市版マンホールカード 無料配布中！

「マンホールカード」は、市のデザインマンホールや市の特徴などが書かれた下水道の広報カードです。かいばら観光案内所で無料配布していますので、配布時間内にお越しください。

■配布場所 / かいばら観光案内所（丹波市 柏原町柏原 3625） ☎ 73 - 0303

※下水道課では配布していません。

■配布時間 / 午前 10 時～午後 4 時

■そのほか / 1 人 1 枚に限り配布

【表】



【裏】



故障したとき・ 雨水が下水道に流れているときは

トイレや排水管のつまりなど簡単な故障はみなさんで修理できますが、手に負えない場合や、雨水が誤って下水管に流れているときは、市に登録のある指定工事店で修理を行ってください。



排水設備指定工事店の一覧はこちら（ホームページ）



井戸水利用者は、使用人数を お知らせください。

井戸水を使用している場合の下水道使用料は、使用人数で算定します。使用人数（世帯人数）を把握できないと、使用料が正しく算定されません。使用人数に変更が生じたら、必ず「井戸水等使用（変更）届」を各支所などへ提出してください。

丹波市 地域おこし 協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

丹波布を学び続ける

西尾 真澄さん vol.40

経歴：札幌市出身。病院・保育所で看護師として勤務ののち、大学で思想・文化を学ぶ。自然と関わりの深い丹波布に出会い、丹波市に移住。任期：平成 29 年 9 月～



こんにちは、西尾真澄です。平成 29 年 9 月から 3 年間の協力隊の任期が 8 月末で終わります。青垣地域に暮らし、今年も棉栽培をしています。昔の糸紡ぎ名人のおばあさんの様に、今後は糸紡ぎができるようになったら嬉しいと思っています。

この 3 年間でどれ程の時間、丹波布関係者の皆さんとお話する時間を頂いたことでしょうか。丹波布の可能性や価値、もの作りに対する姿勢などを教えていただき、学び続けることができました。関係者のみなさんの丹波布への愛情は深く、それぞれの想いを今後も形にしていってほしいと思います。

任期中には、丹波布技術保存会をはじめ、多くの方と一緒に、著名な染色家を招

いての講座など、大小様々な講座を企画・実施しました。また、丹波布の歴史の聞き取りのほか、古い機や技術の調査研究、地元木材会社様との丹波布のいす製作と販売の仕組みづくりにも携わりました。いつかは、地元のみなさんから聞いた丹波布の歴史をまとめてみたいです。関わってくださった多くのみなさんに感謝します。



地元企業と共同製作した丹波布のいす

おそらく誰にも「ワクワクする夢」があります。それが全ての起点、モチベーションとなつて、世の中が前進・発展します。「夢」と「ビジョン」は同じ意味のように聞こえますが、使い分けが必要です。「夢」とは「こんなことが実現したら嬉しいなあ、楽しいだろうなあ」と心に描くこと。一方「ビジョン」とは、「是非ともその夢を実現したい、させねばならない」という気持ちの高まりを受けて、具体的にロードマップ（工程表）や仕事の手順を示すこと。このように私は理解しています。

自治体の使命は「市民の皆さんの夢を叶えること」に他なりません。ただし、夢が全て容易に叶うわけではありません。「お力ネが調達できるか」の財源問題に始まり、「市民間の

市長コラム 丹波語り

自治体の使命とは。
- 「夢」と「ビジョン」 -



公平性が保たれているか」「優先順位はどうか」「費用対効果は」など多くの観点から検証され、提案がまとまります。最終的には市民の代表たる市議会の議決を経て、実現に向かうこととなります。

まずは多くの人と夢を語り合うこと、それが「どれだけ多くの市民の共感を得るものか」を十分に考慮した上で、行動に移すためのロードマップを作ることが必要です。

「夢をカタチに」という言葉があります。夢の実現には多くの制約があるでしょうが、市民の大切な夢を夢で終わらせないために、また、確固としたビジョンを打ち立てるために「聞く話す↓決める」という姿勢が求められていることを改めて実感します。

